

東京港野鳥公園におけるコキアシシギの記録

林英子

日本野鳥の会サンクチュアリセンター。
〒143-0001 東京都大田区東海3-1 東京港野鳥公園

コキアシシギ *Tringa flavipes* はアラスカ、カナダ北部で繁殖し、おもな越冬地は北アメリカ南部から南アメリカであるが、オーストラリア、ニュージーランドなどに迷行した記録がある (Hayman *et al.* 1986)。日本においては、1978年8月に北海道根室市風蓮湖ではじめて確認され (高野 1980, 叶内 1998)、それ以後、石狩川河口 (高野 1980)、愛知県一色町 (高野 1980)、多摩川河口 (日本野鳥の会神奈川支部 1992, 白田ほか 1998)、小櫃川河口 (箕輪ほか 1996)、茨城県出島村 (日本野鳥の会野鳥記録検討会 1993)、および波崎町 (日本野鳥の会野鳥記録検討会 1998)、和歌山県日高町 (日本野鳥の会野鳥記録委員会 1991)、大阪府泉大津 (日本野鳥の会野鳥記録検討会 1997) などで観察されている。しかし、1997年に発表された日本産鳥類リスト (日本鳥学会目録編集委員会 1997) においては、学術論文として公表されていないという理由で、本種の目録への採用が検討中の種となっており、正式な公表が急がれる種である。

筆者は都立東京港野鳥公園 (136°41'N, 35°35'E: 以下 野鳥公園) において1999年9月11日、14日の2日間、コキアシシギの幼鳥1羽を観察したので報告する。

野鳥公園は、1963年から1972年にかけて埋立てられた土地に、1989年に造成された公園で、総面積は24.3ha、園内には干潟、汽水池、淡水池、ヨシ原、樹林地などの環境が人工的に復元されている。1989年4月から1999年3月までに191種の鳥類が記録されており、このうちシギ・チドリ類は、チドリ科9種、シギ科32種である (日本野鳥の会 1999)。

コキアシシギが確認されたのは、「潮入りの池」とよばれる汽水池の内陸干潟と、「東淡水池」とよばれる淡水池の中の湿地である。潮入りの池の内陸干潟は、砂泥質の人工干潟で、面積は2.7ha程度である。9月11日の観察では、この個体は内陸干潟で採餌した後、東淡水池へ移動して採食していた。その後再び内陸干潟に移動し、アオアシシギ *T. nebularia* の群に混じって休憩していた。

この個体をコキアシシギであると同定した根拠を、類似種との比較によって以下に論ずる。体の大きさは、一緒にいたアオアシシギに比べてひとまわり小さくアオアシシギ *T. stagnatilis* のようであった。飛翔時に腰の白色部が四角かったため、白色部が背中まで食いこむツルシギ *T. erythropus* やアカアシシギ *T. totanus* ではないと判断した。また、尾羽には黒色の横斑が入っていた。足の長さはタカブシギ *T. glareola* より長く、鮮やかな黄色であったこ

2000年1月10日 受理

キーワード: 観察記録, コキアシシギ, 東京港野鳥公園



図1. 東京港野鳥公園で観察されたコキアシシギ (撮影: 高田賢一氏)

Fig. 1. Lesser Yellowlegs, observed at Tokyo Port Wild Bird Park.

と、翼下面がタカ斑模様であったことからタカブシギではないと判断した。また、上面は淡褐色であった。以上のことからコキアシシギまたはオオキアシシギ *T. melanoleuca* である可能性が考えられた。しかし、本観察個体は同時に観察された他種との比較において、オオキアシシギより体が小さく、くちばしが細くまっすぐで、オオキアシシギのように少し上にそっていなかった。さらに、鳴き声がピュウピュウという2声であったため、これらの特徴を総合してコキアシシギであると判断した。幼鳥であると同定した根拠は以下のとおりである。コキアシシギの成鳥夏羽の上面には、黒色の地に白色の欠刻斑がある羽と灰色の羽が混在し、成鳥冬羽の同部分は、褐色味がある明るい灰色の羽からなっている (Hayman *et al.* 1986)。一方、本観察個体の上面には、茶褐色の地にバフ色の欠刻斑がある羽が認められた。また、胸の上部には縦斑が一様に認められた。これらはコキアシシギの幼鳥の特徴であるといえる (c.f. Prater *et al.* 1977, Hayman *et al.* 1986)。

本短報をまとめるにあたり、文献を紹介していただいた千葉県立中央博物館の桑原和之氏、写真を提供して下さった高田賢一氏、および観察に協力した東京港野鳥公園のレンジャー諸氏に感謝する。

引用文献

Hayman, P., Marchant, J. & Prater, T. 1986. Shorebirds. Christopher Helm, A & C Black, London.

叶内拓哉. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 山と溪谷社, 東京.

- 箕輪義隆・桑原和之・田村満. 1996. 小櫃川河口鳥類目録 (1974~1995年). 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 5: 85-113.
- 日本鳥学会目録編集委員会. 1997. 日本産鳥類リスト. 日鳥学誌 46: 59-91.
- 日本野鳥の会. 1999. 平成10年度東京港野鳥公園観察指導等業務委託実施報告書. 日本野鳥の会, 東京.
- 日本野鳥の会神奈川支部. 1992. 神奈川の鳥1986-91神奈川県鳥類目録II. 日本野鳥の会神奈川支部.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1991. 野鳥情報 1990.7-1991.6. Strix 10: 315-318.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1993. 野鳥情報・観察記録 1992.8-1993.6. Strix 12: 259-264.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1997. 野鳥情報・観察記録 1995.8-1996.7. Strix 15: 149-160.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1998. 野鳥情報・観察記録 1996.8-1997.2. Strix 16: 177-183.
- Prater, T., Marchant, J. & Vuorinen, J. 1977. Guide to the Identification and Ageing of Holarctic Waders. British Trust for Ornithology, Tring, Herts.
- 白田仁志・桑原和之・箕輪義隆・石黒夏美・杉坂学. 1998. 多摩川河口鳥類目録. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 6: 37-65.
- 高野伸二. 1980. 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の会, 東京.

A record of the Lesser Yellowlegs at Tokyo Port Wild Bird Park

Eiko Hayashi

Tokyo Port Wild Bird Park. 3-1 Toukai, Ota-ku, Tokyo 143-0001, Japan

A Lesser Yellowlegs *Tringa flavipes* was observed at Tokyo Port Wild Bird Park (136° 41'N, 35°35'E), Tokyo, on 11 and 14 September 1999. Identification of the species depended mainly on its bright yellow legs, and the squarish white patch on the rump, as well as being of a similar size to Marsh Sandpiper *T. stagnatilis* and appearing to have longer legs than Wood Sandpiper *T. glareola*, length and shape of bill and voice. The bird was identified as a juvenile by its mantle, scapulars and tertials. This is the first observation record reported in Japan.

Key Words: Lesser Yellowlegs, Tokyo Port Wild Bird Park